学校トイレの改修事例 07
1年後レポート

愛知県豊川市
豊川市立一宮西部小学校

廊下からのトイレ入り口に「みんなのトイレ」の表示が大きく掲げられている。

6種類のサインが併記され、誰でも自由に使うことができることがわかる。一般トイレと違い、ドアの上部が開いていないので、外を気にせず用が足せて安心。

家のようにホッとできる、広い個室空間。

5年生112名のうち100名が利用している「みんなのトイレ」。1人当たり年間5回使われていることがわかり、先生方も驚いている。

性的マイノリティが特別ではないとみんなのトイレが教えてくれた

豊川市立一宮西部小学校では、2017年に完成した「みんなのトイレ」の1年間の利用状況についてアンケートを取りました。

結果は5年生の9割ほどが使用したことがあるとわかり、清潔、広い、温かいといった意見や、「男女差を気にしないのがよい」と書いた児童もいたそうです。

みんなのトイレは、新聞やテレビでも広く取り上げられ、岐阜の大学生や名古屋の高校生も見学に訪れました。国際文化を学ぶ高校生は「これが普通になるといい」と述べていたそうです。

「みんなのトイレができたのを機に、5年生を対象に男女の性差を教える中で、LGBTのことも教えました。子どもたちの反応は全く普通に『あ、そうなんだ』というもの。担任は初めてのことで緊張していたようですが、子どもたちの方が柔軟性があったようです」（柴田育子校長）

5年生にLGBTについて説明をした、学年主任の佐々木孝治先生は語ります。

「特別感をもってほしくないし、偏見をもたれないようしっかり伝えたい。みんなのトイレはそのきっかけになった」

みんなのトイレを使った経験があり、佐々木先生の授業を受けた5年生は、

「LGBTの人がいることは変なことではないので、普通に対応すればいい」（田中太智さん）

「LGBTが特別な存在ではないと、先生から受けた授業で思いました」（田中倖太さん）

LGBT以外もいると聞いて自習レポートを作成した児童に、佐々木先生も驚かされました。

何もないところで急に性的マイノリティを取り上げると言っても、実際は難しい点も多いでしょう。

「この学校ではみんなのトイレがあるから、当たり前にある性的マイノリティのことを普通に伝えることができる。子どもたちの自由選択で、好きなものを使えることも大切」と市教育委員会の塩野谷宜和さん。

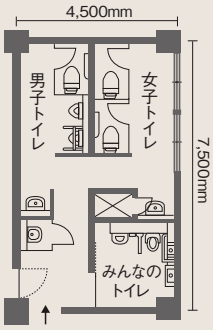
「みんなのトイレ」は、自由に使えるトイレというだけでなく、もはや人の多様性を理解するための資産と言ってもいいのかもしれません。

5年生学年主任の佐々木先生。

学校通信で保護者にも「みんなのトイレ」を紹介。

DATA

- 名　　称：愛知県豊川市立一宮西部小学校
- 所 在 地：愛知県豊川市一宮町緑1
- 児 童 数：592名（2018年4月）
- 施　　主：豊川市
- 設　　計：CREBLE
- 施　　工：小山鉄工建設
- 竣工年月：2017年2月（改修）



改修後

廊下からの入り口は共用となっており、前室を設け、右手に多機能トイレ、奥に男女トイレがある。廊下から見たときにどこのトイレに入ったかわかりにくい。